

< あなたの治療について >

消・外 - XELOX - 大腸 - q3w

今回の治療は、XELOX 療法という治療法で、カペシタピンというのみ薬とエルプラット (L-OHP) という注射薬を併用して行います。カペシタピン、エルプラットは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。2つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行い、1日目の点滴の日の夕から15日目の朝に渡ってのみ薬を服用します。(2日目の朝から15日目の夕まで服用する場合があります) この治療を3週間(21日間)ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目(夕)~15日目(朝)	16~21日目
	カペシタピン (抗がん剤) 2000mg/m ² /日	内服		お休み

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~21日目
	グラニセトロン デキサート (吐き気止め)	点滴 約15分		お休み
	エルプラット (抗がん剤) 130mg/m ²	点滴 約2時間		

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について (頻度20%以上)

カペシタピン・エルプラットについて

白血球数減少、好中球減少、リンパ球数減少、ヘモグロビン減少、赤血球数減少、血小板減少
AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇、ALP 上昇 血中ビリルビン増加
悪心、嘔吐、食欲不振 下痢 口内炎 手足症候群 末梢神経症状 疲労
注射部位反応

特徴的な副作用について

エルプラットにおける

末梢神経症状、咽頭喉頭感覚異常

手、足、口、のどのまわりのしびれ、痛み、のどがしめつけられるような感覚

* 上記症状は、低温又は冷たいものへの曝露により誘発又は悪化することが知られています。冷たい飲み物や氷

の使用を避け、低温時には皮膚を露出しないよう注意して下さい。

過敏症状

発疹、かゆみ、気管支痙攣、呼吸困難、血圧低下など

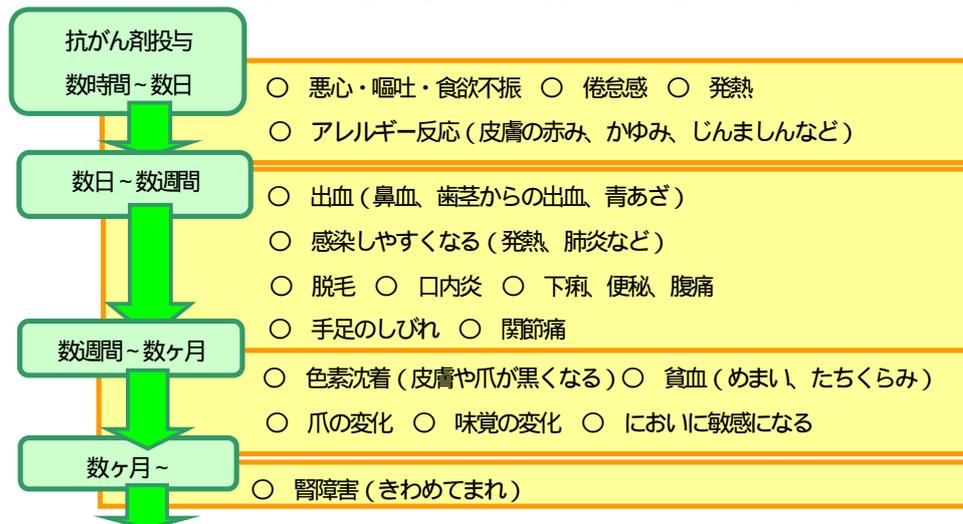
*** 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗癌剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【エルプラット】

<ショック・アナフィラキシー様反応>顔面がそう白になる。胸が苦しい。意識が混濁する。

<過敏症>発しんやかゆみがある。息が苦しい。めまいがする。

<末梢神経症状>持続的に手や足、口のまわりがしびれたり、痛む。のどがしめつけられるような感覚が続く。

<間質性肺炎・肺線維症>から咳がでる。軽い動作や運動時の息切れ。熱がでる。胸が苦しい。

<骨髄機能抑制>寒気がする。発熱。のどの痛み。貧血。めまい。息切れ。出血しやすい。

<溶血性尿毒症候群>発熱。貧血症状。皮下出血によるあざ。しびれ。むくみ。頭痛。

<視野欠損・視野障害・視神経炎・視力低下>目がかすむ。物の形が見えにくい。

<血栓塞栓症>鋭い胸の痛みがある。足の付け根や足に痛みがある。わきの下や腕に痛みがある。

<心室性不整脈・心筋梗塞>どうき。胸が痛い。めまいがする。ふらふらする。

<肝静脈閉塞症>血を吐く。便が黒い。

【カペシタピン】

<脱水症状>からだがだるい、のどが渇く、深く大きい呼吸、手指のふるえ、尿量が減る、意識がうすれる、考えがまとまらない、判断力の低下

<手足症候群 (Hand-foot syndrome)>手のひらや足の裏の感覚が鈍くなったり過敏になる、赤くはれ上がる、痛み、皮がむける、水ぶくれ、ただれ

<心障害>からだがだるい、全身のむくみ、冷や汗、めまい、横になるより座っている時に呼吸が楽になる、息苦しい、息切れ、胸がドキドキする、動く時の動悸、胸の痛み、狭心痛、胸がしめつけられる感じ、胸が押しつぶされるような感じ、胸を強く押さえつけた感じ、急激に胸を強く押さえつけられた感じ、気を失う

<肝障害、黄疸>からだがだるい、白目や皮膚が黄色くなる、かゆみ、尿が黄色い・褐色になる、食欲不振、吐き気、嘔吐

<腎障害>頭痛、顔のむくみ、眼がはれぼったい、尿量が減る

<骨髄抑制>からだがだるい、発熱、鼻血、歯ぐきの出血、息切れ、あおざがができる、出血が止まりにくい、出血しやすい

<口内炎>口の中が荒れて痛い

<間質性肺炎>から咳、息苦しい、発熱、頭痛

<重篤な腸炎 (出血性腸炎、虚血性腸炎、壊死性腸炎など)>激しい腹痛、下痢、血が混ざった便、発熱、むかむかする、吐き気、嘔吐、腹がはる

<重篤な精神神経系障害 (白質脳症など)>物忘れ、ふらつき、ぼんやりする、覚えられない、しゃべりにくい、意識がなくなる、けいれん

<血栓塞栓症>手足のまひやしびれ、しゃべりにくい、胸の痛み、呼吸困難、片方の足の急激な痛みや腫れ、背中の痛み

<皮膚粘膜眼症候群 (Stevens-Johnson 症候群)>からだがだるい、食欲不振、発熱、高熱、中央にむくみを伴った赤い斑点、赤い発疹、まぶたや眼の充血、結膜のただれ、ひどい口内炎、唇や口内のただれ、陰部の痛み

<溶血性貧血>体がだるいめまい、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、息切れ、尿の色が濃くなる

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。